



保育園の理事長をしている養老孟司さん。時々保育園にぶらりと立ち寄っては、園児を虫採りに連れて行くという。

「先生、バナナ虫がいるよ！」

見ると、ツマグロオオヨコバイがそこにいた。確かに、体の表面がバナナのような黄色だ。

養老さんは、園児の採った虫を見ては「本当だ、すごいねえ！」とほめてあげるそうだ。

「子どもが興味を持ち、喜ぶことには、本気で相手をしてあげることが大切だと思います。相手にできないときは、放っておいてもいい。大人が本気なのか、いいかげんなのか、子どもは分かっていますからね」

まだ教育課程が義務付けられていない時期に、大人がどう子どもに接するべきかを養老さんはこう語った。

ある日、養老さんは、園児の採った虫が今まで見たこともない種類だということに気付いた。慌てて園児に「その虫ちょうだい！」とねだったが、断られたという。

「いつかあの虫を譲ってもらおうと思っているんですよね・・・」と茶目つ気たつぷりに話す養老さん。教育者の横顔に、虫を追い夢中で山を駆け回る少年の表情が、一瞬見えたような気がした。